

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1 足立区役所

青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

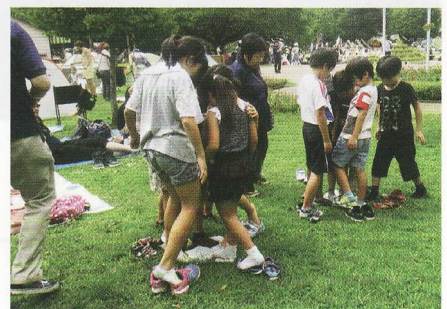
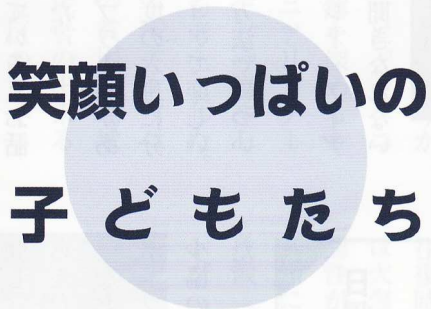
発行人 山本 輝夫

編集 調査広報部

鈴木(春) 大関 田中 小野田

川田 小澤 加藤 高橋 川下

高澤 山岸 南部 辻村 市川



笑顔いっぱいの子どもたち



「心地いい会話が出来ていますか」
 突然の質問に戸惑った。ある年頭会で投げかけられた会話の1コマである。優しさで笑顔で相手を和ませ、人と人を結びつける不思議な力の持ち主である。和顔康寧な趣にその人柄は滲み出て、誰からも尊敬される人だ。

さて、新年一月に筑波下しの寒風にめげず冬季キャンプを実施、ジュニアリーダーと指導者のスキルアップトレーニングである。新たな貴重な体験は経験値となつて生かされる。これもまた準備周到を期するコミュニケーションが実り、確実に成果を上げている。

平成二十九年度最終事業「第十回ドッチビー大会」がスポーツ推進委員会の協力、ご来賓、関係団体のご支援に支えられ大いに盛り上がりを見せた。選手の表情は真剣で礼儀正しく、何よりチームワークが整い、決勝リーグに進んだチームは上級生が下級生をよく面倒を見ている。しっかりとリーダーシップを発揮しているのが印象的だ。



コミュニケーション

足立区
少年団体連合協議会会長 山本 輝夫

大会運営は五〇〇人の参加者と広い体育館をコントロールし、スムーズな試合展開は緻密な計画と協議を重ねたコミュニケーションの成果だと実感した。

冒頭の問いは「人が関わる大切さと共感する喜び」を示唆したものかもしれない。

皆様の本年年度の支援、協力に感謝いたします。

大人が変われば 子どもも変わる

■東京都子ども会連合会
育成研究協議会に出席

平成二十九年十一月二十六日（日）、江戸川区東部区民館において、東京都子ども会連合会育成研究協議会が都内十一市区から約百五〇名の参加をえて開催されました。

足立区少連協からも山本会長以下十一名が参加し、今回は『大人が変われば子どもも変わる』子どもが生き生きと活動するための育成者の関わり方をテーマとして研修が行われました。

この育成研究協議会は、子ども会が発足して半世紀が過ぎ、当時に比べると大きく変わった環境のもとに、地域に対する関心の低下による子ども会活動への参加者の減少、共同意識の希薄化による子ども会活動担い手不足など、様々な課題を抱えている中で、時代の要請に答えられる子ども会活動の具体的方策を求め、研修会を行っています。

カウンセリング研修センター学舎「プレイブ」室長 大熊雅士先



▲足立区少連協からの参加者

いきなり「アントレ？ アイデア百本ノックなど聞ききれない

生の基調講演があり、子ども会の衰退の原因の歴史、子どものいじめ、引きこもり等について克明にお話をしてくださいました。また、自らもアウトドア派で、沢山の遊び等を持っているとお話してくださいました。

午後からはグループワークがあり、参加者が十名程度の六班に分かれ「新しいアイデアで楽しい子ども会を実現する方法」について討議しました。

言葉が次々に出てきます。アイデアを沢山出すための大熊先生のリードにより、アイデアがどんどん湧き、みんなが真剣に考え、午後の眠くなる時間帯も瞬く間に二時間が過ぎました。講演とともにグループワークも少連協の皆さんに経験していただきました。

今後も、このような機会に育成者の皆様に参加していただき、勉強し、子どもの育成に役立ててもらえたらと思います。

なお、足立区少連協からは、スポーツ少年団の熊澤秀弘様、扇地少協の串田麗子様を表彰されました。（副会長 大林 英夫）

日帰り研修会 — 日光東照宮 —

平成二十九年十一月十九日（日）、五十四名の参加により、「日帰り研修会」が開催されました。

朝、七時四十五分に西新井を出発し、車中では、鹿浜育成部長編集の「二十九年度ジュニアリーダー宿泊キャンプ」のビデオ鑑賞を行いました。子ども達やスタッフの活動等、場面ごとに臨場感があ



▲日光東照宮陽明門前で

ふれ、ユーモアある解説で、参加していない方でも様子がよくわかり車中が盛り上がりしました。

目的地の日光東照宮は、江戸幕府初代將軍徳川家康公を神格化した「東照大権現」をお祀りし、日本各地に存在する東照宮の総本社です。社殿で見られる様々な動物の木彫像が特徴と言われています。

平成の大改修が終了し、陽明門は大勢の拝観者で混雑していました。日光自然教室で足立区の小学生が見学する歴史建築物を私たちも学習することができました。

昼食休憩後の帰路の車中では、ビンゴ大会で盛り上がり、無事に親睦を兼ねた研修旅行を終えることができました。

（総務部長 林 俊二）

社会人基礎力を育む：

江東五区少年団体代表者会議



十月十四日(土)、江東区亀戸文化センターにおいて、江東・墨田・葛飾・江戸川そして足立の五つの少年団体代表者が集まり「江東五区少年団体代表者会議」が開催されました。

「子ども会活動と社会人基礎力」についての基調講演があり、ジュニアリーダー活動から学べる社会

人として必要な人間力について学びました。今までの活動が子どもたちの育成に役立っていたことを再確認でき、また、自分たちがこれからの少連協活動で活かせるアイデアを得ることができました。

そのうち、二つの分科会にわれ、現役ジュニアリーダー達や育成者の皆さんと一緒に「ジュニアリーダーと子ども会活動」社会人基礎力を育む地域活動のありかたについてをテーマに、ジュニアリーダーの実情理解を深めると同時に、今後のジュニアリーダーの分母を育成者としてどう増やしていくかの取り組みを考えました。もう一つの分科会のテーマは「見えにくい子どもの貧困」地域の大人・子ども会育成者の出来ること」でした。また五区のジュニアリーダーが集まり、情報交換会も開催されました。

(育成部長 鹿浜 安弘)

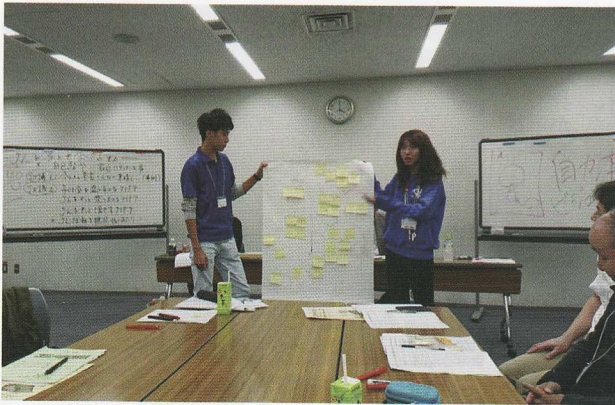


安全な活動のために：

KYT指導者講習会に参加

■KYTって何？

子ども会や地少協などの活動を行うにあたり様々な危険が周囲に潜んでいます。運動中の転倒や接触による怪我や骨折、会場までの往復時の交通事故、キャンプ等では火傷や熱中症、切り傷を負う可能性があります。こうした危険を未然に予知して予防することが、危険(K)、予知(Y)、トレーニング(T)です。

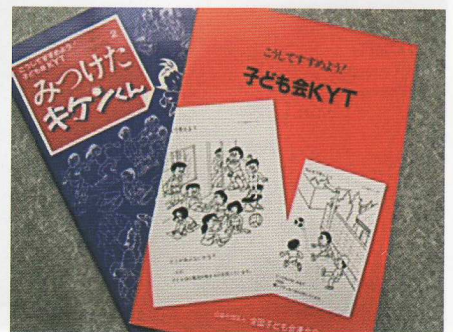


■子どもたちの安全な活動のために

全国子ども会連合会では育成者を対象に、毎年、KYT指導者講習会を行っています。指導内容は、初級、中級、上級があります。十月二十八日(土)、東京都子ども会連合会主催の子ども会安全啓発初級指導者養成講習会が全子連ビルで行われました。足立区からは鈴木春男、鹿浜安弘、串田麗子、内山美保のキャンププロジェクトメンバーが受講し、講義、実技、グループ討議を行い修了証を受領しました。

今後は、足立区のKYT初級指導者として、区内各地でKYT講習会を行い、キャンプ等では安全啓発活動に生かして行きたいと思

います。(副会長 鈴木 春男)



少連協の新年会を開催

チーム少連協 新しい年を迎えました

平成三十年一月十二日（金）午後六時三十分より、勤労福祉会館（綾瀬プルミエ）において、少連協新年会が開催されました。

第一部は鈴木健治副会長の司会、四宮淳司副会長の開会の辞で始まり、区歌「わがまち足立」を斉唱しました。以前より歌詞を見なくても歌える方が増え、区民の力を感しました。

続いて、山本輝夫会長の力強い年頭の挨拶、来賓の足立区教育委員会教育長定野司様、足立区議会議長かねだ正様の祝辞、来賓皆様



▲「わがまち足立」の斉唱



▲かねだ議長のごあいさつ



▲あいさつする山本輝夫会長

方の紹介、足立区立中学校長会会長西村豊様の乾杯と進み、和やかな懇談会のなか、交流の輪を深めました。

第二部では、恒例のビンゴ大会



▲「青い山脈」の大合唱

を行い、景品は、様々な種類のお花や中身がお楽しみの大入り袋が用意され、参加者全員に手渡されました。また、地元企業のご好意で景品の寄付もあり、その後、じやんけん大会も行われ盛況のうちに、終わることができました。

最後に、参加者全員で輪を作り、「青い山脈」を大合唱し、地区対会長会会長加藤和明様の中締め、スポーツ推進委員会会長羽住敏久様の万歳三唱、鈴木春男副会長の閉会の辞で閉会することができました。

少連協は新たな一年間も、子どもたちの明るく健全な育成のために、力を合わせようとおためためて結束しました。

（総務部長 林 俊二）

第四地少協 創立五十周年記念事業 二月七日

「子どもの笑顔いつまでも
消すな地域の子ども会」

昭和四十一年に当会を発足し多数の先輩方が築き上げた組織や運営をもとに、常に前向きに取り組むことができました。

昨今、少子化により子ども的人数も減り、また、塾や各スポーツ等に関わる子ども達が多く、当地少協においても会員数は減少を辿っております。しかし、そんなことは言っていられません。子どもが一人でもいる限り子ども会を存続させ、町会の宝として育成して



▲祝賀会で舞う獅子舞

いかなければなりません。スポーツの得意、不得意があるかもしれませんが、スポーツに限らず勝ち負けは、これからの人生で多く学ぶことでしょう。

その手助けが少しでもできるのも子ども会の役目かもしれません。これまで以上に地域の皆様のお力とお知恵を賜り第四地少協の発展のためにご支援ご鞭撻をいただき、一層の応援をお願いいたします。

これからも、前向きに六十年、七十年と続けることを目標に、突



き進んで行きたいと思っております。また、色々な行事を行っておりますのでお立ち寄りください。

(第四地少協会長 多島 三好)

あだち区民まつり 2017に共催

あだち区民まつり「Aフェスタ」が十月七日(土)、八日(日)に荒川河川敷「虹の広場」で行われました。

初日は前日からの雨で足場が非常に悪くなり、スタッフの皆様は大変なご労苦をされました。

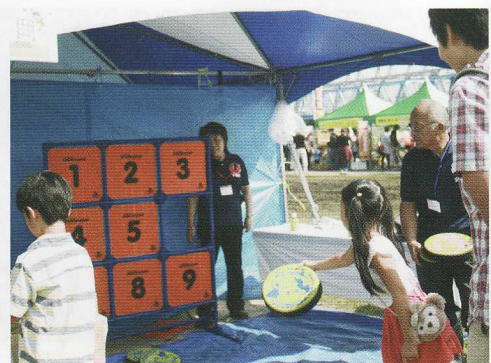
お陰を持ちまして、実行委員会を中心となり数カ月前より準備したゲームや模擬店を出店することができました。今年は電球ソーダ水をメインに、ソースせんべい、スーパーボール^{すく}掘いを出店するとともに、例年同様に飲料販売、ストラックアウト、くじ引きゲームを本部テントで行いました。また、ふわふわトランポリンでは、長い行列となりましたが待った末に、ふわふわトランポリンの中に入ると、子どもたちは大はしゃぎで喜んでいました。



▲ふわふわトランポリン

私たち少連協は、区民の皆様方とまつりへの思いを共有し、ふれあい、楽しいひとときを創り、子どもたちの笑顔が見られれば最高です。また、行事を企画し運営する中で、各地区の育成者が悩みを話し合い、解決していくことが理想です。

今後とも各地少協や子ども会関係者が連携し、それぞれがレベルアップして、子どもたちに感動を与えたいと思っています。引き続き、少連協の活動にご理解ご協力



▲ストラックアウト

のほどお願いいたします。

(副会長 鈴木健治)

第十回ドッチビー大会開かれる

二月十一日

平成二十年から始まったドッチビー大会は今年で十年目を迎えました。はじめは、梅島のエルソフイアで開催されました。試合コートが二面しか取れず、選手の入替も大変で、また観客席も狭く応援をする保護者からクレームをいただくこともありました。しかし、足立区総合スポーツセンター大休



▲選手宣誓

育室を会場とする今では、それも懐かしい思い出となりました。今年度は、十年の記念すべき節目の年です。オープニングに「百合チアリーディングクラブ・エンジェルス」の皆様からダンスの披露があり、大会の雰囲気盛り上げていただきました。さて、ドッチビーの試合は、足立区スポーツ推進委員の皆様方による主審、副審、線審等のルールに則った規律厳正な運営を得て行われます。

二十一チーム、選手二九一人が、小学生の部と小中学生の部に分かれ、三つのコートを舞台に熱戦が繰り広げられました。一ゲームは二セットで行われ、一セットの試合時間は三分三〇秒です。その時間内に相手チームをどれだけ外野に出せるかで試合は盛り上がります。ディスクから逃げる子やディスクを掴み相手に投げ返す子など、コートの床面には

選手の動く音が響きました。一方、コート脇では、監督やコーチからの指示や助言が大きな掛け声となっていました。また、ギャラリイ席からは、保護者や出場チームの地元の方々や友だちからの応援の声が大歓声となっていました。役員をしていて毎年思うことですが、子どもたちの成長と、チームワークのよさ、また、試合戦略を考えて練習されているのが、今年はいつにもまして鮮明に現れていたように感じました。小中学生の部の試合は、中学生が戦略を考



▲百合チアリーディングクラブ・エンジェルスの演技

息の合ったチアダンスに大きな拍手を送る来賓、スポーツ推進委員の皆様



▲息の合ったチアダンスに大きな拍手を送る来賓、スポーツ推進委員の皆様

え、小学生を巧みにリードしているのがわかり、上下関係が密に取れているようでした。このようにスポーツを通して異年齢の子どもたちが活動できる子ども会が増えてもらいたいと、あらためて思いました。スポーツと言えども、試合は「戦い」なので、勝ち負けがあるわけです。勝ったチームが監督、コーチ、保護者と手を取り合い喜ぶ姿を見て感動しました。来年もぜひ連覇を目指し練習してもらいたいと思います。また、負けたチームは顔一杯に涙を流してしま



▲がんばりました

たが、来年はぜひともリベンジしてもらいたいと思います。

なお、今年は冬季オリンピックが開催されるので、その雰囲気を感じてもらえるよう、入賞チームには賞状をメダルに変えての授与となりました。これからも、各地少協でチームを作り、たくさんの方の参加の中で、子どもたちが感動できることを期待しています。

(事業研修部 多島 三好)

小学生チーム	
順位	チーム名
1位	カバチ Jr
2位	加平キッズ
3位	花保子ども会

結果発表

小中混合学生チーム	
順位	チーム名
1位	綾瀬キッズ
2位	五色さくら
3位	カバチ



▲試合風景



▲試合風景



▲小学生の部 優勝 カバチ Jr



▲小中学生の部 優勝 綾瀬キッズ

スキルアップ キャンプ

結果より経過

正月飾りを外す前の寒中、一月六～七日に、今年もジュニアリーダースキルアップキャンプを行いました。足立区主催のジュニアリーダースーパー研修会研修生と共に、茨城県常総市「あすなろの里」へ行きました。

今回は、高校二年生のジュニアリーダーが実行委員会を立ち上げ、秋から、日程や活動内容などを話し合い、一泊二日の宿泊キャンプを企画運営しました。

高校生リーダー四名、中学生リーダー十二名、少連協スタッフ十五名で行った研修キャンプは、冬の厳しさを再確認するものでした。

このスキルアップキャンプを始めたきっかけは、自身の野外活動スキルをあげ、次年度の夏のキャンプに活かせるように三年前より始めました。



私たち育成部が期待していることは、結果をすぐに求めず、ジュニアリーダー達に「失敗」という経験をしてもらうことを重要視しています。たとえ、結果が自分たちが思い描いたものでなくても、その失敗という経験を次回どのように活かすことができるかを大切にすることがこのキャンプです。

「同じ釜の飯を食う」ということわざの通り、ジュニアリーダー同士だけでなく、少連協スタッフを含めた大きな集団が一つになるための欠かせない活動の一つになったと思います。

(育成部長 鹿浜 安弘)

☆ジュニアリーダー 研修会☆ いよいよ始まります!

ジュニアリーダー研修会とは、三日間の研修会でジュニアリーダーについて楽しく学ぶ入門講座です。ゲームやダンス、創作活動をしなが、たくさんの方の友達も作れます。

各地域（地区少年団体協議会）ごとに、足立区内の小学校二十一会場で、四月から六月頃に開催し、足立区在中、在学の小学四年から六年生が対象で、参加費は無料です。

申込みは、四月以降に足立区の小学校から配布されるチラシをご覧の上、各学校にお申込みください。

毎年、参加した子どもたちは、



▲新聞紙ドームの中で遊ぶ子どもたち



▲コミュニケーションゲーム

「楽しかったあ」と笑顔で帰って行きます。

なお、このジュニアリーダー研修会を終了した五、六年生は、夏のキャンプに参加する資格が得られます。

編集後記

今年度の後半も様々な行事が行われました。これからも、子ども



たちの育成に役立つ活動を展開していきます。今後とも、ご理解・ご協力をお願いいたします。